

猫
だ
っ
て
夢
を
見
る



丸
谷
才
一

猫だつて夢を見る

一九八九年十月二五日 第一刷

定価はカバーに表示してあります

著 者 丸 谷 才 一

発行者 豊 田 健 次

発行所 株式会社 文藝春秋
〒一〇二 東京都千代田区紀尾井町三―二三

印刷 凸版印刷
製本 中島製本

© Saichi Maruya 1989 Printed in Japan
ISBN4-16-343730-4

万一落丁乱丁の場合はお取替いたします

目次

セーラー服	9
遊戯的動物	17
井物への道	21
ガンバレ考	29
睡眠欲	38
『宮本武藏』論	45
ちよつと時評的	60
豆腐	66
英雄、色を好む	71
ネクタイ	81

宴会

ジャージー島の思ひ出

三百年後

七月六日のこと

酒中閑談

泣いちやいけない

幾とせ古里きてみれば

あの無思想に燃えるもの

ナポレオン伝説

やんごとない名つけ

アンディ！

声と職業

88 93 100 119 129 138 146 153 161 169 185 195

%的人間論

牛と豚

左右

難語考

家系について

トポスの問題

社長の理屈

父の教訓

彼らの尊王

名探偵バーティ

いろはにほへと

文春伝説

われわれ人間は眠りながら、ときどきレム睡眠をおこなふ。これは、体は眠つてゐるが脳は目覚めてゐるに近い状態ださうで、しきりに目玉を動かすといふ。このとき夢を見てゐるんださうです。夢見睡眠ともいふ由。

これが犬や猫にもあると聞くと、なるほどなあと納得がゆきますね。ほら、よく寝入つてゐるやつがガバと跳ね起きたり、急に低く唸つたりするぢやありませんか。あれは骨の夢とかマタタビの夢とか、見たのでせう。恋の相手と夢のなかで逢つたのかもしれない。哀れである。

しかし、それぢやあほかの哺乳類はどうなのか。猿や馬は夢を見ないのか。いや、もつと広く、鳥や魚はどうなのか。

それは今後の研究に委ねるとして、もしも鳥獣虫魚がこと

ごとく夢を見るとすれば、動物の言葉を解するドリトル先生は大変だらうな、とわたしはひそかに案じてゐます。といふのは、夢の話は誰かにしたくなるから。

ここで打明け話になりますが、わたしには明け方に見た夢について仔細に報告する癖があつて、どうも家族の評判がよくない。おもしろくないのださうである。これがまへまへから、不思議でたまらない。

猫だつて夢を見る

装幀・イラストレーション
和田 誠

セーラー服

戦前、日本の男は緋縮緬ひぢりめんの長襦袢ながじゆばんに興奮したらしい。心に思ふだけでもかつかと燃えたらしい。いま彼らは（われらは、かな？）女のどういふ衣裳に興奮するか。サトウサンペイさんならば言下に「ミニ・スカート！」と答へるだらう。彼の描くフジ三太郎といふ男の生活を見ると、どうもそんな気がする。もつとも、小説の作中人物によつて漫画家の実生活を云々うんぐんするのはかしい、とも言へる。それならかう言ひ直さう。サトウサンペイさんならば、いまの日本の男がいちばん夢中になる女の服装はミニ・スカートだと推定してゐるに相違ない、と。

しかし、もう一つありますね。セーラー服といふやつである。あれの人氣はいまだに大したものらしい。ポルノ・ビデオでも少女が何される筋のものはセーラー服が最近むやみに多くなつたと聞いた。ずいぶん古典的だなあとは思ふけれど、われわれ日本の男にとつて、少女を指

示する記号の第一はセーラー服なのだ。どうやら、二なく三なく四もない、といふ調子らしい。専制的な君臨である。

とにかく少女と来ればセーラー服。女子高と来ればセーラー服。映画やテレビに女子高校生が出て来るとかならずセーラー服を着てる。これは現在の実状を考へると、かなり不思議な話です。といふのは、女子高の制服では大した比率を占めてゐないからだ。たとへば『東京女子高制服図鑑』（昭和六十一年十一月刊）といふ本があつて、冒頭の千代田区ではかうなつてゐる。

セーラー服 4校

ベスト・スカート 1校

ブラウス・スカート 4校

ジャンパースカート 3校

つまり三分の一にすぎない。そしてわたしの縄張りである（ヤクザみたいだね）目黒・大田・品川区といふセクションではかうなる。

セーラー服 3校

ベスト・スカート 4校

ブラウス・スカート 5校

ジャンパースカート

5校

すなはち三割にも満たない。道理であまり見かけないと思つた。それなのにこの『制服図鑑』の表紙は、表も裏も、ハンガーにかけた、白に紺のセーラー服と紺のスカートである。ほかの表紙では読者が承知しないと思つてゐるわけだ。

セーラー服趣味の男は中年男が圧倒的に多いさうだが、その中年男たちがかつて可憐な、あるいは生意気な、あるいはイヤミな、少年であつた時代、セーラー服はお嬢さん学校の象徴であつたせいだらうか。それとも、さういふ歴史的な事情のせいではなく、セーラー服の本質、衣裳としてのフォルムと機能に日本の中年男、さらには老若を問はず日本の男全体を魅惑するものがあるのか。どうも厄介なことになりましたね。むづかしい。じっくり考へよう。

ここで一言ことわつて置きますが、わたしにはセーラー服趣味はありません。わたしは昔から、日本の教育の欠陥の一つは制服だと思つてゐる。制服なんてものがあるせいで、教員は服装に眼を光らせてばかりゐるし、生徒は何とかして禁を犯さうと必死になる。もつと大事なことがいつばいあるのに、それがみんな閑却されて、若いエネルギーも若くないエネルギーも、服装問題に集中してゐる。下らないねえ、あれは。教育審議会なんて機関は、何よりもさきに制服廃止を提唱すべきなのである。いつたい何をやつてるのか。さう考へてゐるわたしとしては、セーラー服の少女たちを見てうつとりする気になんかとてもなれないのだ。それに実際問

題として、あれは妙に野暮つたいものです。わたしは嫌ひです。

そのくせ、スチュワーデス、ウェイトレス、デパートの女店員、看護婦、婦人警察官などの制服に反感を持たないのは不思議ですね。別に好感を持つてゐるわけでもないが、まあ、無関心なんです。どうやら、職業による制服と学校による制服とは性格が違ふ、と思つてゐるらしい。これはわたしが学校教育の体験があつて、そのせいで学校によつて強制される制服に対してはアナーキスティックな悪意をいだき、一方、制服を着る職業には一ぺんも就いたことがないから、職業上の制服に対しては資本主義的感情をもつて臨むのかもしれない。

と言つても、軍服は着ましたよ。敗戦の年、半年ばかり、あの黄いろい服を着せられてしまつた。あれは自由意志で選んだ職業ではないから、職業上の制服ではなからう。わたしの氣持としてはむしろ獄衣に似てゐた。そしてわたしが学校の制服を嫌ふのは、あの軍服に対する反応との近似がかなりありさうな氣がする。

セーラー服はもちろんイギリス海軍の軍服がはじまりだから、ここでやうやく本論に戻るこゝとができるわけだが、陸軍の軍服と違つて、こつちには何か遊びごろがありますね。もちろん本当のことを言へば、あれは機能性を追求した結果なので、ふざけるつもりなんか、ちつともなかつたのだ。たとへばセーラー襟の、背後に垂れ下つてゐる広い長方形は、あれを耳の後ろに立てて音を聞くためである。そしてセーラー襟を飾る三本のテープは布地の補強用である。



(ネルソン提督の三大海戦、ナイル、コペンハーゲン、トラファルガーの勝利を記念するといふのは誤り。) ネッカチーフが何のためかは知らないが、あれだつてきつと何か実用性があるにちがひない。このあたり主として、太田臨一郎氏の論文を参考にして書いてゐるのだが、一八五七年イギリス海軍の制定した水兵服が、あつといふ間に世界中を席捲し、今日でも相変わらず各国の海軍が、イデオロギーの如何にかはらずこそつて採用してゐるのは、この、高度の機能性のためだらう。イギリスかぶれといふわけではない。が、とにかくういふ合目的性を極端に狙つた結果、出来あがつたものは、日常性からかけ離れた、ロマンチックな感じの服装だつた。それに、海戦は遠距離で砲撃しあふものになつたため、陸軍の軍服と違つて保護色を

用ゐる必要がないのも幸ひした。そこで、水兵でない者（生命の危険もなければ殴られもしない者）が見ると遊びどころが横溢してゐる、楽しい制服が生れたのである。

かうなれば、イギリスで子供にセーラー服を着せるのはやるのは当り前だし、この風俗は外国にも広まる。世紀末のころ、イタリアでは、少年少女の流行の服装はマリナーラ、つまりセーラー服だつた。ヴィスコンティの映画『ベニスに死す』の美少年が着てゐたでせう。イギリス世紀末は、ワイルドやビアズリーやシャーロック・ホームズや男色趣味のほかに、セーラー服も輸出したのである。もちろん女の子はズボンではなくスカート。

日本では明治二十年代の後半に上流家庭で女の子に着せたのがはじまりですが、明治二十六年は一八九三年ですから、世紀末ヨーロッパの流行はまったく同時に本邦に到来したことになる。

少女が着るやうになつたのは明治三十年代の末から（明治三十九年是一九〇六）。そして女学生の制服になつたのは大正十年（一九二一）ごろから。つまりまだ六十年しか経つてゐないんですね。それなのに、少女と来ればセーラー服といふ、図像学的伝統が確立してしまつた。

どうしてこんなことになつたかと考へるとき、心に浮ぶのは、これも太田氏の論文で知つた、明治時代、軍港の近くでは水兵を「ジョンベラさん」と呼び、セーラー服を「ジョンベラ」ないし「ジョンベル」と呼んでゐたといふ事実である。太田氏はこれについて、「何から訛つた